

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

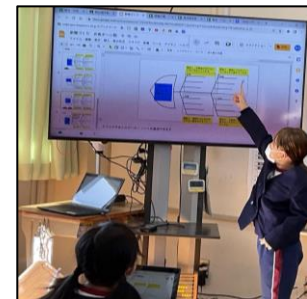
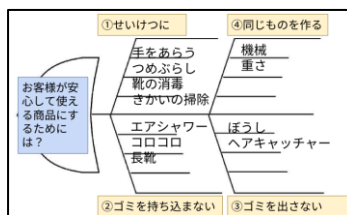
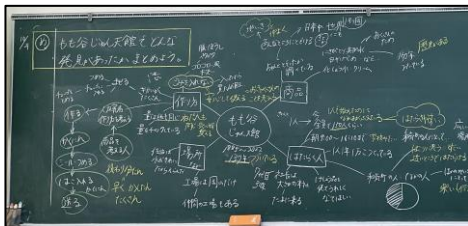
学校名	和気町立佐伯小学校	実践者名	行本 菜由
教科等	社会科	学年	第3学年
		Stage	Stage 3
育成したい 資質・能力	児童が、身近な地域や市町村の特色に疑問をもち、主体的に問題解決をしようとする態度や技能を高める。		
単元・内容等	「工場ではたらく人と仕事」		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	学習意欲は高いが、受動的な学習に慣れている。タブレット端末（Chromebook）を日常的に使用することができ、調べたいことを検索したり、伝えたいことを発信することができる。		

活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する

○単元構成

- 第1時 導入・課題設定：和気町の工場について知りたいことをリストアップする。
- 第2時 情報収集：和気町の工場について、副教材やタブレットを使って調べる
- 第3時 整理分析：工場見学で質問したいことをまとめる
- 第4時 情報収集：工場見学に行き、質問する
- 第5時 整理分析：工場見学で分かったことを振り返る
- 第6・7時 まとめ・表現：工場見学で学んだことを新聞にまとめる
- 第8時 振り返り：新聞を読み合い、学級で学びが伝わるものになっているか確認する

○「整理分析」から「まとめる」ときに端末と思考ツールを活用



工場見学を通して見つけた様々な発見を、「全校に伝えたい。」という児童の思いをもとに、発信する方法を児童と一緒に考えた。過去の学習から「新聞で伝えたい。」という児童の考えを尊重し、まとめる活動と表現する活動を行った。子どもたちが見つけた工場の工夫を数々取り上げていくと、「全てを伝えることはできないから分類する必要がある」ことに気づき、ウェビングマップを使って種類分けをした。その中から一番伝えたいテーマを決め、テーマに関連する記事が書けるよう、フィッシュボーンチャートを使って課題を整理した。

実践者の手ごたえ

教科書やインターネットの情報で得られる情報と現地でしか得られない情報があることに気付くことで、より目的意識をもって工場見学に行くことができた。

新聞にまとめる際は、まずは何も提示せずに書いてみて、児童が文の構成に悩んだタイミングでフィッシュボーンチャートを提示することで、思考ツールのよさを実感しながらまとめることができた。授業を進める上で「○○したいけど、うまくできない。」という必要感を児童にもたせることや、考えたことをイメージしやすいツールを最善のタイミングで提示することにより、学びに向かう意欲が高まり、より深い学びができると感じた。

児童生徒の振り返りや反応等

(児童の様子から)

先に教科書やインターネットで下調べをしたことで、工場で実際に見たいという気持ちが高まり、疑問をたくさん出すことができた。

情報が整理されることで、頭の中でまとめやすくなり、伝えたい意欲が高まった。また、思考ツールを活用することで、作文の苦手な児童も構成をとらえやすくなり、テーマに沿った記事を書くことができた。